

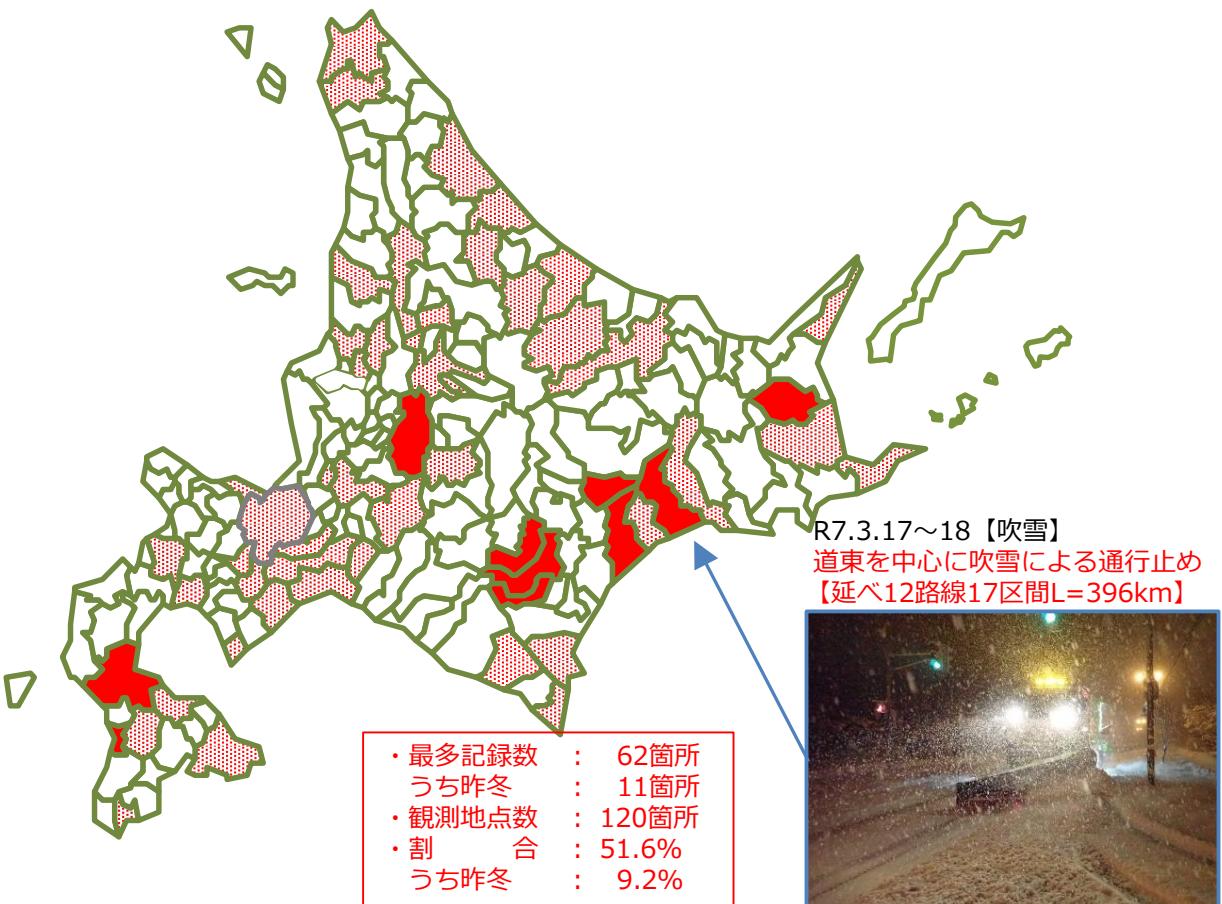
今冬の大雪・暴風雪に関する取組



北海道における近年の気象状況

- 気象庁のアメダス観測地点（120箇所）での、過去10年間の降雪量観測において、統計開始以来最多となる降雪量を記録した観測地点が全体の**62箇所（約52%）**と、各地で大雪等となっている。
- 昨冬は、十勝地方で令和7年2月3日からの降雪により、帯広では12時間降雪量としては、国内観測史上1位となる120cmを記録する大雪となり、交通障害や日常生活に大きな影響が発生。

■ 統計開始以来最多となった地域



凡例

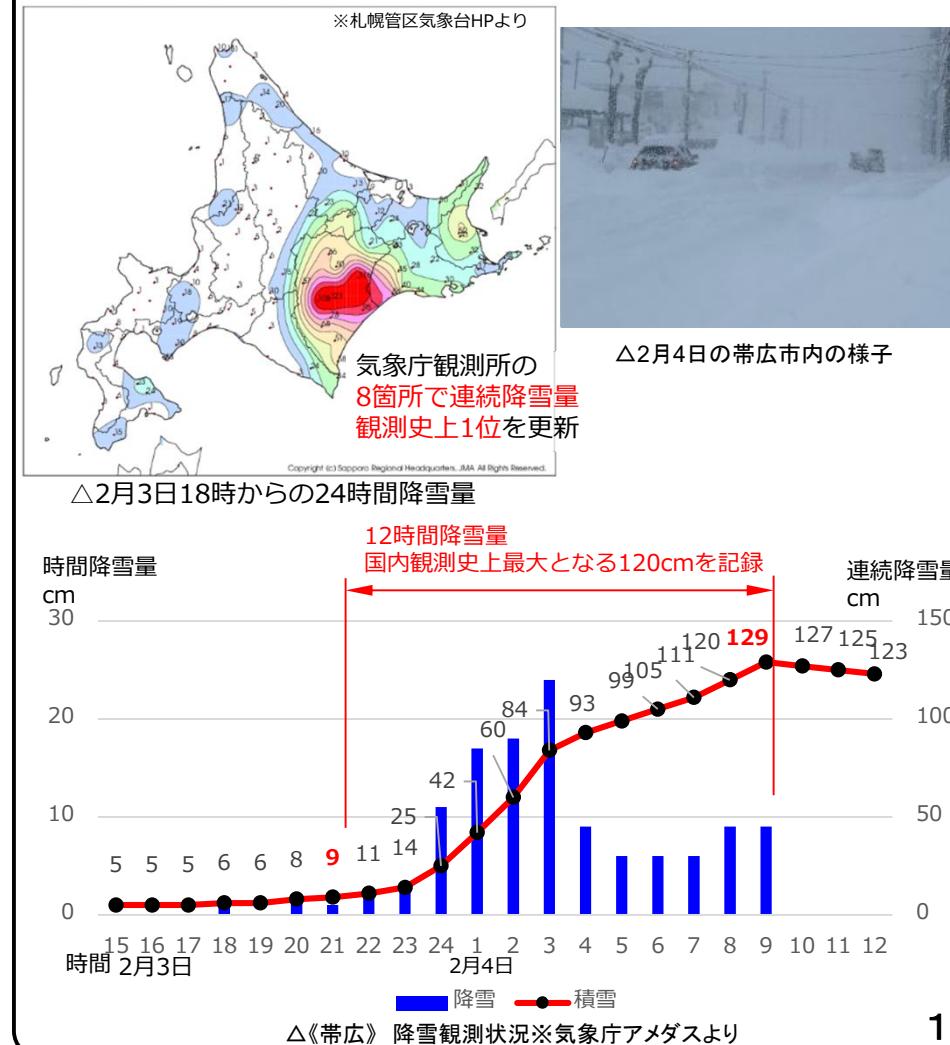
- ◆今冬に最多を記録した市町村
- ◆最多を記録した市町村

※気象庁HPより、各観測所がある市町村を対象
 (対象期間：2016～2025年の10年間)

※気象庁HPより、統計は1979年より30箇所で観測を開始

※気象庁HP公開データを北海道開発局が独自に集計

■ 令和7年2月3～4日の大雪の状況



1 除雪体制の確保

- ① 国道の除雪体制と自治体への支援体制
- ② i-Snow®の取組（ＩＣＴ除雪機械の配備状況）

2 大雪・暴風雪時の対応

- ① 予防的通行止めの実施と緊急車両の通行確保
- ② 自治体への道路除排雪作業の支援（帯広市）

3 防災情報等の活用とお願い

- ① カーナビへの大雪時の情報等の発信【New】
- ② レバンガ北海道との共創による広報活動【New】
- ③ 道路利用者等へのお願い

1. 除雪体制の確保

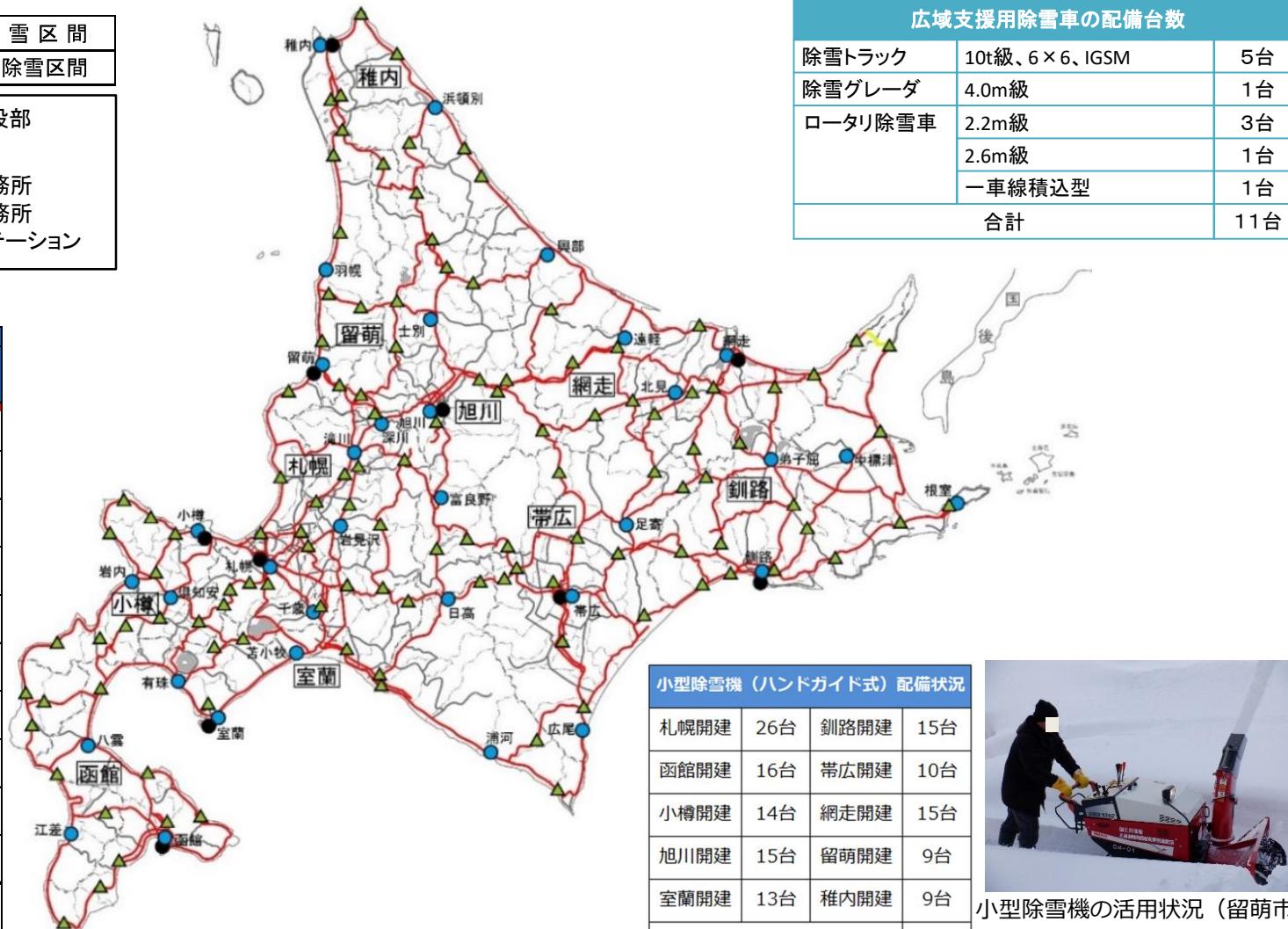
①国道の除雪体制と自治体への支援体制

- 直轄国道除雪区間延長はL=6,881km。153箇所の除雪基地と1,077台の除雪機械（内、11台は広域支援用除雪機械）を配備した除雪体制の確保。
- 自治体への支援体制として、小型除雪機（ハンドガイド式）を142台配備。

除雪基地・機械配置状況	
除雪延長	6,881km
除雪基地	153箇所
除雪機械	1,077台

【凡例】

—	除雪区間
—	未除雪区間
●	開発建設部 (除雪基地)
●	開発事務所
●	道路事務所
▲	除雪ステーション



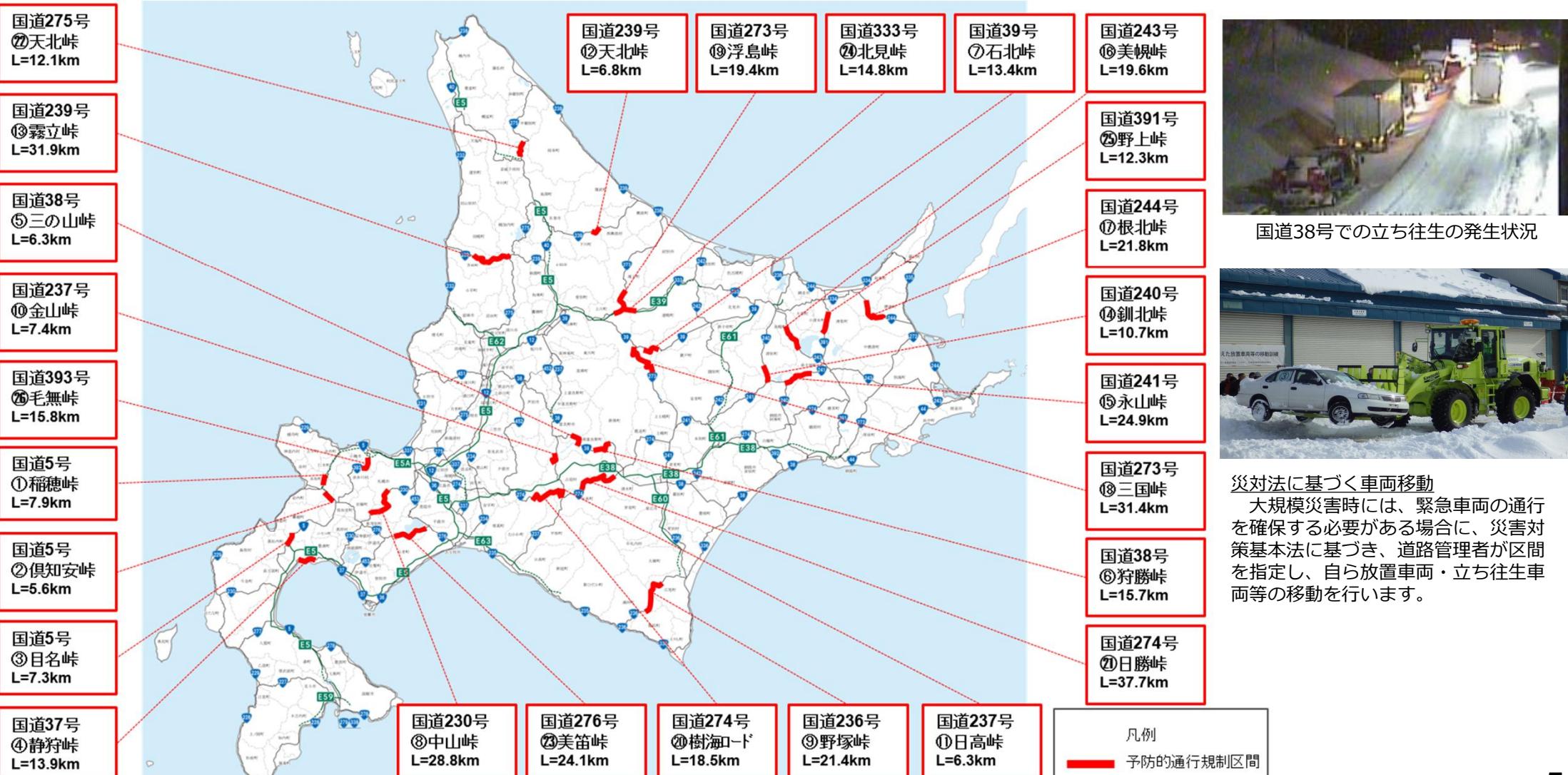
② i-Snow® の取組 (ICT除雪機械の配備状況)



①予防的通行止めの実施と緊急車両の通行確保

- 数年に一度の猛ふぶき等が予想される場合は、車両の大規模な立ち往生の発生による通行止めの長期化を防ぐため早い段階で躊躇のない通行止めを実施。通行止め実施後は、**集中的な除雪**により**早期の交通解放**を行うことで、住民生活や社会経済活動への影響を最小化します。

■予防的通行規制区間（26区間）



国道38号での立ち往生の発生状況



災対策に基づく車両移動

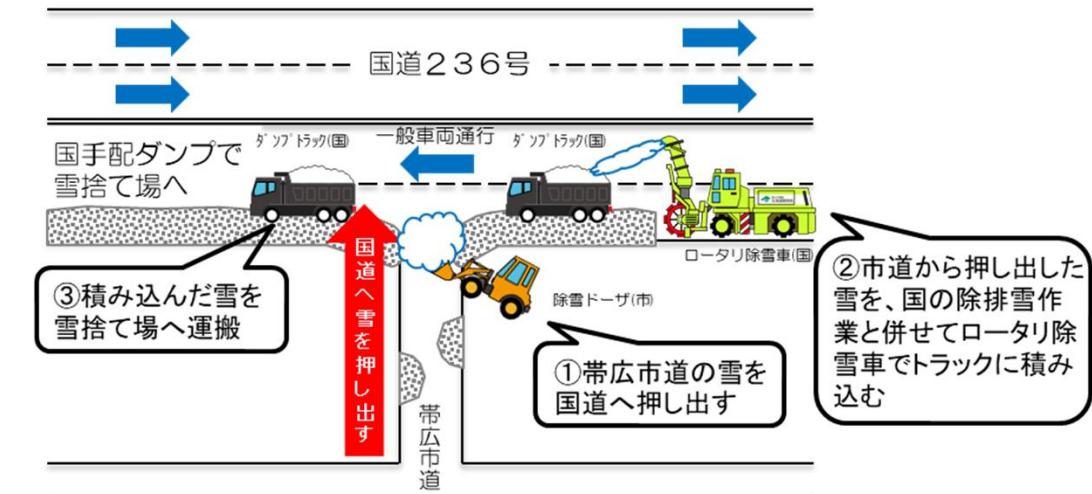
大規模災害時には、緊急車両の通行を確保する必要がある場合に、災害対策基本法に基づき、道路管理者が区間を指定し、自ら放置車両・立ち往生車両等の移動を行います。

②自治体への道路除排雪作業の支援(帯広市)

- 令和7年2月3日（月）からの降雪により、十勝地方では大雪となり、帯広市では12時間で120cmと、国内観測史上最大の降雪量を記録し、市民生活に大きな影響が発生しました。
- 帯広市からの要請を受け、除雪ドーザで市道から国道へ押し出された雪の運搬排雪支援や、除雪機械等の派遣による市道の道路除排雪支援を行いました。引き続き、自治体からの要請に基づき道路除排雪支援を実施します。

■連携除雪（スクラム除雪）の実施

自治体にて運搬排雪作業を行う機械（ロータリ除雪車やダンプトラックなど）の手配が困難な場合や排雪する市町村道が隘路で運搬排雪作業が困難な場合に、国道に接続する市町村道を対象に、国道の運搬排雪作業に合わせ、市町村道から国道へ雪を押し出し、国道運搬排雪にて排雪作業を行う支援。



①市道から国道への雪の押し出し

②③国道の運搬排雪に合わせ積み込み・運搬

■除雪機械等の派遣による道路除排雪支援の実施



①カーナビへの大雪時情報等の発信【New】

- これまで大雪や暴風雪による悪天候が予想される際は、関係機関との連携による「暴風雪に対する緊急発表」の報道発表等により、不要不急の外出を控えるよう呼びかけを実施してきました。
- 新たな取組として、「数年に一度の暴風雪」や「記録的な大雪」等の悪天候が予想され、関係機関との連携による報道発表を行う場合に、不要不急の外出を控えるようカーナビへ情報発信を行う取組を開始します。

■これまでの対応

■関係機関と連携した記者発表



暴風雪に対する緊急発表

～最新の気象情報・道路情報・交通関係情報を事前に確認し、万全な備えを～

日本海側では、16日は急速に発達する低気圧により「数年に一度の猛ふぶき」となる見込みです。見通しの全くきかない猛ふぶきや吹きだまりによる立ち往生に警戒が必要です。最新の気象情報や道路交通状況等を確認していただき、万全な備えをお願いします。

■(公財)日本道路交通情報センターとの連携

- ・ラジオ放送による不要不急の外出を控えることへの協力を呼びかけ

発信内容

悪天候予測時・警報等発表時

- ・悪天候時の車での外出控え、大型車のタイヤチェーン装着徹底の呼びかけ

■新たな取組

■情報発信内容 (例)

- ① ○月○日から○○地方で大雪の恐れ
不要不急の外出は控えてください

※注：カーナビの機種によっては、「直ちに命を守る行動をとってください」の表示のみ

- ② ○○地方で大雪警報発表中
不要不急の外出は控えてください



VICSセンターを
経由し発信エリア内の
カーナビへ情報発信



▲カーナビへの表示イメージ



JARTICへ
情報発信

3. 防災情報等の活用とお願い

②レバンガ北海道との共創による広報活動【New】

- これまで新聞広告にて安全な冬道走行のための準備や大雪・暴風雪への備えについて、広報活動を実施してきました。
- 今冬は、これまでの取組に加え、連携協定を締結している**レバンガ北海道との共創の取組**として、折茂社長や選手によるX(旧Twitter)での広報活動を実施します。

■これまでの対応

新聞広告による広報活動

主な内容

○冬道の準備

冬道運転に備えた早めのタイヤ交換（10月25日掲載）



引き続き以下の広報活動を予定

○安全・快適な道路利用

除雪作業への協力やチーンの携行
(12月上旬)

○大雪・暴風雪への備え

悪天候時の出控えへの協力や外出時の備え
(1月上旬)

■新たな取組

- 多くの方が利用するX(旧Twitter)による情報発信
- レバンガ北海道の情報発信力を生かし、より多くの道路利用者へ情報発信
- レバンガ北海道公式X (旧Twitter)でのリポストによる発信力の向上



③道路利用者等へのお願い

○市街地の除雪作業は、快適・安全な朝の通勤通学のために、交通量の少ない深夜から早朝にかけて作業を行いますので、除雪作業に伴う**振動や騒音の発生にご理解をお願いします。**



○路上駐車は、円滑な**除雪作業の妨げ**になりますので、ご遠慮ください。



○車道や歩道への雪出しあは、**交通事故の発生や車・歩行者の通行の障害**となる場合がありますので、**自宅内の雪は道路に出さないでください。**



○大型の除雪機械により除雪作業を行うため、玄関前等に一部の雪が残ることがあります。除雪作業後の**残雪処理は、各ご家庭等、ご使用者**にて実施していただくよう、ご理解をお願いします。



○市街地の交差点、郊外部の坂などに**砂箱**を設置しています。路面が凍結している場合には、**砂まき**にご協力をお願いします。



③道路利用者等へのお願い

- 暴風雪による大雪や猛吹雪、吹きだまりにより「立ち往生」などの可能性がありますので、**不要不急の外出はお控え下さい。**
- やむを得ず自動車を利用し外出する場合には、ヘッドライト点灯、防寒対策などの事前の備えを十分に行うようお願いします。また、**大型車はスタッドレスタイヤでも走行できない恐れがありますので、タイヤチェーンを必ず携行・装着して下さい。**
- 安全な走行が困難な場合は無理をせず、最寄りの「SA・PA」や「道の駅」等で、天候回復を待つなど、早め早めの対応をお願いします。

外出の際は以下の備えを



※上記は備えの一例であり、天候等に合わせた万全な備えをお願いします。

立ち往生し救助を求めるときは

- 立ち往生してしまった場合は、ハザードランプ点灯や停止表示板等により、停車していることが他の車や周囲にわかるよう表示。
- 警察・消防等に救助を求める場合は、出来るだけ位置を正確に伝える。

※国道での位置は、道路脇の1km置きに設置された標識を確認。

※警察署、消防署へ救助を求める場合 : 110／119

JAFロードサービスへ救助を求める場合 : 0570-00-8139
(#8139)



立ち往生して車内で救助を待っているときは

- 車で走行中に立ち往生してしまい車内で救助を待つときは、低体温症や凍傷、排気ガスによる一酸化炭素中毒にならないように十分注意が必要です。

! 一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。



! 原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。

しーん…



! エンジンをかけるときは

防寒等でやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。



※窓を開けていても風向や窓の開度等の条件によっては、一酸化炭素中毒の危険性があります。